

ポレポレ

倶楽部 通信

発行日 2013年 2月 No.23

発行責任者 高田 次雄

久留米市安武町武島468-2

「出会いの場 ポレポレ」内

Te l 0942-27-2039

F a x 0942-27-2086

『次の時代を考えるプロジェクト』進行中！

昨年11月、法人の次の世代を担う若手を中心に11名のプロジェクトチームを結成し、改めて法人理念に立ち、自分たちに何ができるか、これから何をしていくかを真剣に考え、今後の法人運営に反映させるべく取り組んでいます。定期的に集まり、ワークショップをしたり、誰もが主体的に意見を出し合ったりして、議論を重ねながら進めています。



プロジェクトメンバー（23歳、5年目）・・・

ポレポレの法人理念に「障がい者が地域で幸せな人生を送るという命題」があります。そこで、まずは、幸せって何だろうと考えました。「リラックスをする」「おいしいものを食べる」など…幸せって難しいイメージが強くあったのですが、意外と当たり前でささやかなことが実は幸せなんだ！と感じました。しかし、そんな当たり前でささやかなことでも障がい者は環境や支援がないために奪われていることを知りました。まだ始まったばかりですが、私たち自らが発信し力を合わせて、法人を創っていきたいと思います。

（ポレポレスタッフ 小川 真太郎）

目 次

2・3 p・・・もっと自由に！もっとその人らしい！旅行を

4 p・・・人と地域を元気にするそら豆とは

5 p・・・高齢の人も若い人もでてこんの

6 p・・・第11回ポレポレ祭りを終えて

7・8 p・・・グループホーム学会福岡大会

もっと自由に！もっとその人らしい！旅行を

みんなで楽しいことをしようと団体で北海道、ディズニーランド、沖縄、宝塚などあちらこちらに旅行に行きました。今年度は、「できることは今！」、「一人ひとりの意思決定を大切に」、「もっと自由に」、「自分にあった旅」をしようというコンセプトで団体旅行ではなくメンバーそれぞれの思いを大切に個別旅行を企画しました。70名のメンバーが国内（14都道府県）、海外（韓国）全34か所、その人らしい思い思いの旅を満喫することができました。

14 都道府県・・・愛知、沖縄、京都、熊本、三重、鹿児島、大阪、大分、長崎、島根、東京、福岡、兵庫、北海道

（ポレポレスタッフ 上村 千尋）

旅行に行ったスタッフの感想・・・

今回、初めてマンツーマンに近い形で、メンバーさんとの2回旅行に行くことが出来ました。日頃見ることのできない表情など新しい発見や、まだまだ社会にはバリアーがあり障がいを持つ人が楽しめる場が少ないことがよく分かりました。また、想定外のこともたくさんあり、学ぶ事がたくさんありました。この経験を今後の自分自身の活動に活かしていきたいと思います。

【第1弾】残暑厳しい中の9月の終わりにK・Yさんと京都へ

まず、ご本人の体調やペースに合わせて、予定を一緒に組み立てました。

1日目は、京都の東映太秦村。大きなテーマパークに着き、入り口で車椅子を借りることができて移動が楽になりました。町娘や侍の衣装したパフォーマーを見てスタッフもきゃっきゃと騒ぎました。特に忍者屋敷でのアクションショーが気に入られたようで、手を叩いて喜んでいました。

京都駅近辺に戻ってから熱望していたパフェを食べに行きました。30分の行列待ちを経て、抹茶パフェ、お芋パフェを食べスタッフ共々満面の笑みを浮かべながらホテルへ向かいました。一休みした後、同日程で京都入りしていた上村さんとE・Yさんと4人で近くの居酒屋へ、その日の思い出を語りながら少しお酒をたしなみ、夕食を楽しみました。その夜は、疲れもありイビキ合戦を繰り広げました。

翌日は、京都駅ビルで車椅子を借り、駅ビル内でお土産を探して散策して回りました。ポレポレのみんなや家族にと、いっぱいおみやげを抱えて満足気に帰路に着きました。

【第2弾】気候のいい11月中旬、T・Sさんと沖縄へ

高速バスで久留米から空港まで向かう途中流れる景色を楽しげに眺めていました。バス

の乗り降りの際には階段の高さに躊躇する場面がありました。飛行機に乗りましたが、座席も腕置きが邪魔になり着席しづらかったりと、まだまだ公共交通機関も障がいのある人に対して、配慮ができていません。

沖縄に着くと、タクシーで運転手さんに沖縄の話を聞きながら、回りました。

チャンプルー料理、近海魚を使った料理、色々な沖縄料理、T・Sさんはとても沖縄の水が合ったようで、どの食事でもよく食が進んでいました。夜は慣れない環境で初日はあまり眠られていませんでしたが、2日目は疲れもあるのか、熟睡しておられました。2泊3日一緒に過ごし、T・Sさんの魅力にぐうんと引きこまれ、また、来年一緒に旅行したいなあと思いました。

(ポレポレスタッフ 前田 力哉)

メンバーの感想・・・

■九州新幹線+熊本城■

今度の旅行は、特に岡さんにお世話になりました。帰りは満足して帰りました。城の石垣は、地元の中 小企業の社員さんたちが、ボランティアで除草されていました。最初、昼食に馬肉を食べようと話し合いましたが、バイキングを選びとてもおいしく頂きました。来年に向けて、研修旅行で力がみなぎったように思います。

(メンバー K・Kさん)

■東京ディズニーランド■

初めて惣菜処 ぽれぽれの旅行に行きました。女3人旅は楽しかったです。ディズニーシーは初めてで感動！！ 入場口に大きな地球儀がありました。夏だったので花火も初めて見ました。ステージのイベントでは炎が上がり、私たちの所まで来て迫力がありました。ミッキーの手の形をしたパンではさんだチキンバーガーがおいしかったです。2泊3日あつという間でした。また旅行に行きたいです。

(メンバー T・Tさん)



異国情緒あふれる神戸の旅
メリケンパークにて



カンガルーへ挨拶
大分アフリカンサファリにて

人と地域を元気にするそら豆とは

一昨年から、ポレポレの依頼でそら豆を栽培している高齢者素人農民です。

ここで、私の安武農業振興の一端をご紹介します。この地区では約50年前まではどの農家でもそら豆を作っていたようです。しかも、「安武そら豆」は今風にいえば知る人ぞ知るブランド農産物であった訳です。そうだ！これを復活しようではないか、これをもって6次産業¹を目指そうではないかと息巻いた次第です。

これまで、安武地区では4~5名の生産者がそれぞれ10~20坪の面積で栽培・出荷していたのに、ポレポレでは、初年度から450坪といきなり大型生産者になりました。周囲の農家の方からは無謀だよ、無茶だよと言われながらも、不安そうにまるで病人の見舞いに来るように畑に見に来てくれ、いろいろなアドバイスを頂きました。これこそ、まさに農村の繋がりであり、農業振興には欠かせない連帯意識であると嬉しくなりました。今では地域の人たちに関わっていただきながら、そら豆を育てています。

また、そら豆の育成・栽培と市場への出荷あるいは店舗への出品、その後の加工など一連の工程の中で、障がいのあるメンバーが喜んで関わってくれるかを常に念頭に置いて作業しなければなりません。これもポレポレ農園の大事な役割であります。私はこの一連の農作業をアグリセラピーと言っております。このアグリセラピーは障がい者・高齢者は勿論のこと健常者にとっても「大地とのふれあい」として大きな癒しです。だから、放置されて荒れた農地を復活して利用することも農業振興の一つであり、地域振興の根幹になりえます。

1次産業である農業が元気になるれば2次・3次産業も元気になり、子どもも、お年寄りもそれぞれにそれなりに携わることで元気になり、安武地区は元気になるでしょう。私はこれを信じてやみません。

最後に、次のような取り組みをしておりますので、みなさま、とりわけ小さいお子様の参加をお待ちしております。それは、「そら豆畑の中で、どれか気に入った苗に自分の大事な人の名前を付けそれを優しく見守って、時折畑に来てその成長ぶりを確かめる。」といったことです。ちなみに第1号は[しょうた君(1歳)]です。名づけ親の方は時折、来園されて苗が元気に成長していくのを嬉しそうにみえています。ところが、私にはまだ孫がいまないので、今は全~部のそら豆苗がかわいい孫であります。
(農作業サポーター 園田 靖夫)



¹ 農業（1次産業）をベースに、加工（2次産業）、流通販売・観光交流（3次産業）全体を組み合わせ、連携し、地域の自然や文化も取り込みながら消費者のニーズに沿った地域独自のモノやサービスを生産、提供することで付加価値や新たな食農ビジネスを創出する産業です。

安武町地域移動支援事業「でてこんの」 ～高齢の方も、若い人も でてこんの～

福祉活動に関わるようになって、安武地区でも高齢化がすすんでいることを実感しています。昨年「でてこんの」という地域の方々のための移動支援事業が、地域の方々によって安武町に立ちあげられました。「ポレポレ」から提供していただいた移動支援車を使って、現在 30 名の方が利用されています。



安武町は、公共の交通手段であるバスを使おうとすると、バス停が遠い上に必要な目的地が路線に少ないため、利用しにくいのが現状です。民生委員という立場上、訪問して、お話を聞く機会がありますが、特にお一人暮らしの方は外に出ることが不便な状況です。そういう方たちが、経済的にも利便的にも、もっと気軽に、地域の方々と交流を持ちながら利用できる移動手段として、使っていただけたらと思っています。

移動支援サービス事業を行う任意団体「でてこんの」は賛助会員と利用会員とで運営されています。高齢者や障がい者などの外出が困難な方々を支援する目的でできました。運営委員でもあり、車の運転を担当してくださっている方々は、貴重な時間をボランティアとして、地域の方々のためにと、本当に「思いやり」の気持ちを持って協力していただいています。

運営委員の会議を毎月 1 回開いて、地域の方が一人でも多く利用され、家から気軽に外に出かけられ、生活を楽しんでいただけることを願って、みんなで知恵を出し合っています。まだまだ多くの方を支援するには、賛助会員がさらに増え、一人でも多くの方にお手伝いしていただかないと、小さな活動で終わってしまいます。



今、自分にはまだ必要ではないと思っている私たちが、今から自分ができる範囲で、地域の方々を支え合っていけば、次につながっていくと思っています。私も賛助会員として関わらせていただいています。

安武町のみんなで地域福祉を進め、地域の方がいつまでも社会とのつながりがもてるようにと願っています。地域の活性化のためにも、若い方たちにもぜひ加わっていただけたらと思います。

(民生委員 飛永 由記代)

第11回ポレポレ祭りを終えて

前回は10回の節目で、東日本大震災の支援を柱にしてポレポレ祭りの枠を超えた大きな祭りでした。それを受けての今回の祭りで、テーマや趣旨に関し、実行委員会や事務局会議で検討を重ね、「でてこんの楽しかばい！」のテーマになりました。



祭りまで1週間となった月曜日、当日の天候が雨天（それも大雨）との予報でした。外でのイベントやバザー、館内での混乱・・・果たして大丈夫だろうか？

不安がよぎる中、準備に取り掛かるみなさんの姿は本当に「生き生き」と見えました。それぞれのパワーが朝まで降り続けた雨をおしのけ、晴天を招いたように思います。

当日は、前回に引き続き、東北からご参加いただきました。浪江焼きそば、物産展など・・・未だ被災地の傷が癒えぬ中、祭りに全力で取り組んでもらい、「来年もまた来たい！」ということばを残して下さいました。

また、前回同様、地域のみなさんに防災グッズの展示販売コーナーを行っていただきました。防災の備えとしての非常食や非常電源は来場者にとっても関心があり、売り上げも好調だったようです。

また、今回のテーマに添い、地域の高齢者、障がい者を対象とした移動支援「でてこんの」のみなさんにご協力をいただきました。普段はなかなかこのような祭りに参加できない方にも楽しんでもらいました。

毎回たくさんの品物を提供いただいているガレージセール、バザーも大盛況で、昨年並みの収益をあげることができました。また、雨天対策のために多くのテントを設営されたみなさん、前日の雨は本当に大変だったと思います。

これからも、ポレポレ祭りが多くの人々をつむぎ、地域を越えた絆を生み出していけるよう、みなさんのご協力をいただければと思います。本当にありがとうございました。

（ポレポレスタッフ／祭り実行委員長 姫野 健太）

■第11回ポレポレ祭り 収支決算

<収入の部>

項目	金額
広告・協賛	1,891,000
東北物産売上	536,630
バザー売上	1,497,945
ガレージ売上	541,545
学校交流売上	34,700
その他	253,951
収入合計 ①	4,755,771

<支出の部>

項目	金額
広告・協賛	676,981
東北物産売上	562,198
バザー売上	292,950
ガレージ売上	268,778
学校交流売上	474,787
その他	819,577
支出合計 ②	3,095,271

<収支差額>

項目	金額
収支差額 (①-②)	1,660,500

●今回の収益金の使途

拓く 830,500 円
 (災害時発電機)
 東北支援 415,000 円
 地域へ 415,000 円
 ① 移動支援「でてこんの」の後押し資金
 ② 祭りで関わった安武小学校・大善寺小学校へ寄付として

グループホーム学会を久留米でやりたい!

平成23年は岡山、平成24年は岩手…全国各地で行われているグループホーム学会。ケアホームの世話人になった2年前から連続で参加させていただいています。

学会では、ケアホームホームを取り巻く制度や全国の先駆的な取り組みを知ることができ、多くの学びと気づきがありました。また、普段聞くことのできない他法人の世話人の方の話聞くことができ、実践に活かせることばかりでした。特に『当事者大集合』では、全国の障害当事者の方が集まり、支援者抜きに、日々悩んでいる事などを話し合ったり、解決策を考えたり、これからどういう暮らし方をしたいかを皆で真剣に考え、熱い話し合いがありました。『当事者大集合』に大きな衝撃を受け、これは久留米でも是非やりたい!と考えるようになりました。その旨を、日本グループホーム学会運営員会に申し出て、前回の岩手大会と一緒にいった4名のメンバーといっしょに「久留米にでてこんね!」とステージ上で次のグループホーム学会を久留米で開催することを宣言してきました!

第10回日本グループホーム学会(福岡大会)を開催します!

平成25年6月29日(土)30日(日)の2日間、久留米市市民会館にて「日本グループホーム学会」が行われます。今年は初めて福岡での開催とあって、福岡県内の方々に集まっていただき福岡大会を成功させるべく日々話し合いを進めています。

今回の大会では福岡を知っていただくという事を目的の一つに掲げ、タイトルに方言を使ってみたり、セッションの中に福岡の先駆的な取り組みを入れたりして全国に発信していきたいと考えています。

また一般の方にも分かりやすい内容にする事で、福祉関係者だけでなくみんなでの街づくりを考える、そんな大会にしたいと考えています。そのため、実行委員にはこれからの時代を担う若いスタッフを中心に置き、新しい考えを織り交ぜながら大会内容を考えています。1日目には「当事者観光ツアー」があり、久留米を多くの方に知っていただけるような企画を用意しました。2日目には「当事者大集合」として、当事者の方だけで語り合い交流するプログラムを予定しています。

(ポレポレスタッフ 児玉 元気)

【グループホーム学会とは】



「グループホーム学会」は、全国各地方で地元の実行委員会を組織し、その時の社会背景を取り込み、地方の特色を織り交ぜながら、様々な視点から障がい者の地域での暮らしを考えるフォーラムです。

グループホーム 第10回 グループホーム学会 福岡大会

『混ざり合って暮らす そげなまちにするばい』

障害があっても、高齢になっても、住みたい場所で自分らしく暮らし続けたい。それを実現するためにはどのような支援や制度、地域のあり方、環境整備が必要なのでしょうか。お互いに支えあい、混ざり合いながら暮らすグループホームの課題や全国の取り組みを踏まえて、新しい暮らし方を一緒に考えてみましょう。グループホームの世話人や入居者同士の本音がさくれつする「しゃべり場」も開催します。

日時

2013年 6月 29日(土) ~ 30日(日)
(13:00 ~ 17:00) (9:00 ~ 12:30)

場所

久留米市民会館 (福岡県久留米市城南町16番地1)

会員: **両日券** 3,000円 **1日券** 1,500円

非会員: **両日券** 4,000円 **1日券** 2,000円

参加費

当事者・学生: **両日券** **1日券** 2,000円

入居者大集合のみ参加者(障害当事者): 500円



プログラム1日目【6月29日(土)】

久留米市民会館 [大ホール]	13:00 ~ 13:15	開会
	13:15 ~ 15:15	シンポジウム 『知ってみよう 混ざり合う暮らし方』 「わかちあう」「まざりあう」といった新しい暮らし方が全国で始まっています。それらの取り組みから実践に活用でき、豊かに暮らせるヒントを探ります。
	15:15 ~ 15:30	休憩
	13:30 ~ 17:35	シンポジウム 『こんな暮らしをしたい！を実現するために』 「こんな暮らしをしたい」という希望が叶えられるのでしょうか。それを実現するために必要な支援、制度、環境整備、地域のあり方について考えます。
	18:30 ~	懇親会&ナイトセッション『みんなで語ろう』
観光	11:00 ~ 17:00	『久留米の観光ツアー』

プログラム2日目【6月30日(日)】

久留米市民会館 [大ホール]	9:00 ~ 10:00	講座 『全国のホームの研究報告』 当学会で実施したグループホーム・ケアホームにおける支援に関する実態調査、入居者の高齢化、居宅介護等の利用、夜間・日中・土日休日等の支援、医療的ケアの実態等を紹介。
	10:00 ~ 11:00	講座 『自立支援法から総合支援法へ！どう変わる障害者の暮らし』 平成25年4月から「障害者総合支援法」が施行されます。新しい制度で何が変わるのか、暮らしにどのような影響があるのでしょうか。
	11:00 ~ 11:10	休憩
	11:10 ~ 12:30	シンポジウム 『水害にどう備える！？～事例から学ぶ～』 水災害の際、グループホームでの暮らしはどうなったか、今後の対策は？水災害の実例を通してグループホームでできることを考えます。
小ホール	9:00 ~ 12:00	入居者大集合『Make a Wish ～みんなの夢はなんですか？～』

グループホーム学会福岡大会実行委員会 事務局 (出会いの場ポレポレ内)

お申込
問合せ先

電話 080-2705-7456 FAX 0942-27-2086

〒830-0071 福岡県久留米市安武町武島 468-2

Email: kurumef@gmail.com

主催 障害のある人と援助者でつくる日本グループホーム学会
共同主催 グループホーム学会福岡大会実行委員会

チケットを販売しております!
申込はお問い合わせ下さい